

宮崎のゴールを喜び合う選手たち。秋田監督も「宮崎は元々キック上手いし、持ってるものはかなり…」と宮崎を称賛 (撮影・川崎篤彦)



KOMAZAWA × KANSAI

1点を守りきり決勝トーナメント進出！！

勝敗を分けた二つの分岐点

後半47分。ロングパスが関西大DFの頭を越え原に。原はそのボールをゴールに蹴り込む。GK森田、弾く。転がったボールは赤嶺へ。赤嶺シュート。GKがDFを防ぐ。転がったボールの先にいるのは宮崎。宮崎、ダイレクトでシュート。「ふかさないうちに」蹴ったそのシュートはGKの頭を超え彼の意図とは、はずれ天に向かって伸びていく。気持ちには届いていた。ボールはバーの下部に当たり激しい音と共に下方へ。シュートを止めた中が不運にもそこであった。背中に当たったボールは勢いは消えたが、ゆっくりと着実にゴールに進む。そして白線を越えた。

分岐点は二つ。前半40分までと62分以降。前者は関西大の攻撃が湧えた時間。大分トリニータから誘いがきた亀ヶ淵。一昨年前田俊介(広島)と共に広島ユースのレギュラーだった大塚等の個人の打開力にパスで崩す組織が相乗された攻撃は、櫻のボールからパス&ゴールで中央突破、サイドに振り、ドリブルで仕掛けることを意図していた。如実だったのは35分。亀ヶ淵から阪本に櫻が入る。阪本は右サイドに流れていた櫻田へ。櫻田がそこからクロス。中央で木本がヘディング。ゴールにはならなかったが危ない場面だった。前半チャンスは多くボールを支配していた関西大。しかしシュートをたった3本。もっと積極的にシュートを放っていれば違う結果になったかもしれない。逆に、この40分間を守りきった。関西大は櫻のボールに対して警戒網を張り関西大の攻撃に順応していった。そこから流れは駒大に傾き、ゴールに繋がった。そして62分、桑原が2枚目のイエローカードで退場。が、その後関西大の攻撃は沈静化。焦って自分たちのスタイルを曲げ、ドリブルで前に突破することに終始したからである。駒大は、プレスにはいかずに来たボールに対して全部跳ね返すことで対処した。牧野と十人になり守り方変え無失点で試合を終わらせた。焦ってスタイルを変えてしまった。駒大と決めるべきところで決め、十人になっても冷静に守り方を変えた駒大。どちらが試合巧者たるか。赤嶺、桑原とチームの核が出場停止で欠き、相手は去年リーグで勝てなかった順大、リーグを獲ったチームは優勝していないというジレンマ。駒大に吹く逆風。試合巧者駒大はどうかねのけるか。次節、国立の地でクライマックスを迎える。(香取 真人)